の転移性肝癌症例では集学的治療が必要不可欠であり，化学療法に造詣の深い医師の逸材を求めているという。「超音波診断やvascular interventionの領域では日本を代表する医師らがスタッフに加わった。症例もますます増加しており，ポストなども含めた受け入れ態勢も万全なので，化学療法のエキスパートを含めて，我こそは！と思う医師はぜひスタッフになっていただきたい」（椎名教授）。

また海外には圧倒的なハイボリュームセンターが存在し，多くの分野で日本の病院の数倍の症例数を持っている。このため，日本の医療の国際的なプレゼンスが低下している。「これからは国際競争も意識する必要がある。いかにして高水準の医療を提供していくのかを考える必要がある」（椎名教授）。

椎名教授はこれまで豊富な症例を集積し，その結果医療の現場に活気を生み出し，よりよい診療体系を確立し，さらに多数の症例が集積するという連鎖のvirtuous circleを作り出してきた。「限られた症例数の施設では治療技術を向上させるのは難しい。大学病院群として日本最大の順天堂大学に多くの医師を受け入れて切磋琢磨できる環境を作り，RFAなどの低侵襲治療を用いて日本の医療の発展に貢献していきたい」と結んだ。

写真4　順天堂大学大学院医学研究科 画像診断・治療学教室のスタッフ